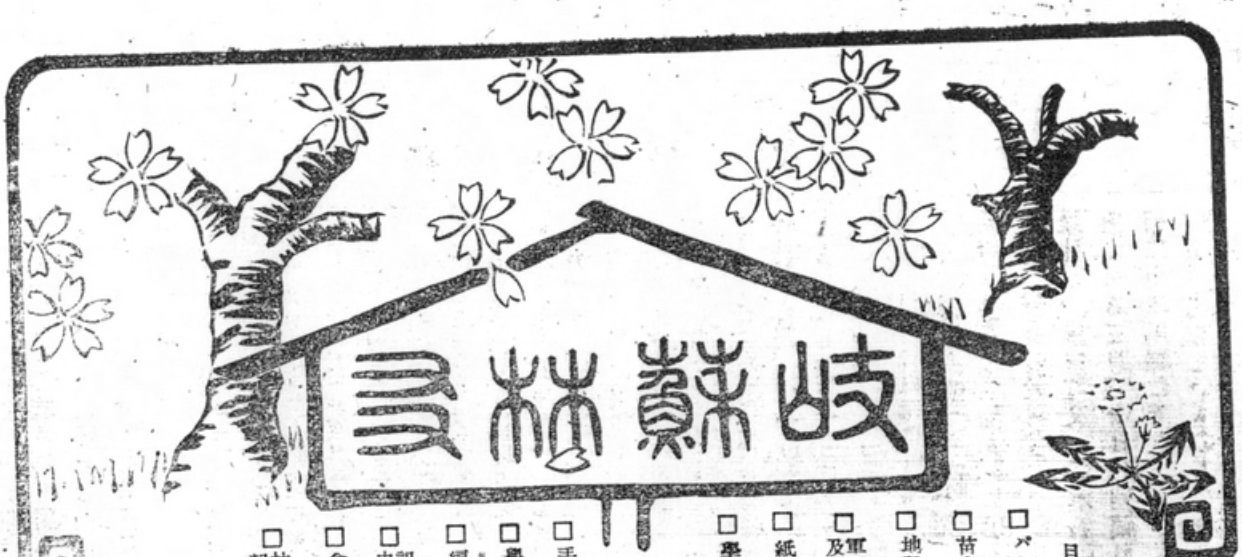

目次

□パルプ
□苗木町と鑛物
□地質斷片
□軍需用材樹種及用途
□紙屑より
□學校行事
□手紙の一節
□學校記事
□編輯室より
□記念事業醵金申込報告
□會員動靜
□林友代金領收報告

大正十年四月廿五日　第百三十八號　毎月廿五日發行　（明治四十四年六月十四日第三種郵便物認可）

パルプ

四月十一日は聖德太子千三百年御忌日に當るので學校などでは夫々奉讃歌を合唱したり其の御遺德に就いて講話などがある樣である

聖德太子は日本製紙の鼻祖である、歷史に徵しまするとと推古帝の御字に高麗の貢僧曇徵と申す者が製紙の術を傳へましたが其の方法粗惡で紙質が非常に不良だつた故太子は楮の皮を以て雲紙縮印紙白柔紙俗薄紙の四種を抄造し又州邑に楮を植栽せしめ製紙の法を敎へ給はれた樣である、其の後程なく灰汁を以て煮ることが工夫せられ又抄造に**ネリ**を加用する方法が考察せられ兩々相俟つて本邦獨特の强靱なる紙を得られる樣になつたのである、現今に及ぶも尙其の遺法を踏襲して特色ある日本紙を誇り得る所以のものは實に太子の遺德の致す所である

然るに現今に於ては楮皮の外三亞皮雁皮皮等も盛に用ゐられ又木材パルプの混用を見るに至り打解裝置抄紙器等も洋式のものを用ゐて抄造を試みる者が現はれたが尙製法の幼遲なると價格の不廉なると且其の製品が印刷其の他近代の新需要に適合しない爲逐次洋紙の爲に壓倒せられる傾向である

而して此の洋紙の原料は木材パルプである木材パルプは獨り洋紙の原料である許りでなく現今に於ては日本紙でもパルプの混用されて居ないものは殆どない樣な有樣である

其の木材パルプは如何にして作られるものであるか、若し諸君が岐阜縣中濃津町近に一日の行遊を企てることがあつたら彼處の中央製紙會社の門を叩いて貰はまへ、今其の場合の豫備知識として一寸書述べて置かう

木材パルプは之を大別してメカニカルパルプ又（グラウンドパルプとも云ひます）とケミカルパルプとの二種とします（ケミカルパルプにはサルファイトパルプ、ソーダパルプ、サルフエートパルプ等の種類がありますが日本內地で作られるものは殆どサルフアイトパルプである）

メカニカルパルプ即機械的木纖維韋木原質等と稱するものはグラインダーと稱する砂岩の回轉丸砥石に木材を水壓等によつて押つけ其の木材の實質を破碎して水によつて流出し磨狀としたものの水分を去つたもので勿論純纖維ではないが之に少量のケミカルパルプを混用すれば紙に抄造し得且其の價格極めて低廉である故需要が頗る多いものである、中央製紙會社には三臺のグラインダーがあつて各約三百馬力の動力で回轉して一ヶ年に千九百餘噸位のパルプを產出して居る

サルファイトパルプ即亞硫酸木纖は酸性亞硫酸塩類の溶液を用ゐて木材實質を蒸煮し纖維を抽出し洗滌漂白除れしたもので木材蒸煮に用ゐる鑵即ダイゼスターは鐵製紡錘

形のもので内面は酸に犯されない樣に鉛耐驗煉瓦等で裏裝されて居る中津の會社には直徑八吋八吋長三十二呎のダイゼヌター二臺あつて一ヶ年に二千三百噸のパルプを生産して居る

次にパルプ用材として適當なものはトドマツエゾマツモミマツガシラベタウヒ等で中津の會社では元々木曾川流域の樅栂類を目當として居つたが原料缺乏の爲北海道材樺太材等を使用し内地材は信州美濃飛彈一帶及北陸諸州野州甲州方面迄も原料の蒐集に努めて居るとのことであるうして一ヶ年の原料消費高は五万石以上に達すると云ふ

原料木材をグラインダー又はダイゼスターにかける迄の調製としては先剝皮すること一定の長さに鋸斷すること太いものは割裂することが必要でグラインダーにかけるものは尙除節することが必要であるしダイゼスターに入れるものはチッパー（木材を小片に切る器）にかけて小片（チップと稱するものにも選別する手數を必要とする

一〇——四——一〇

苗木町と鑛物

菊池一

鑛物學を學んだ人は苗木町を知つてる筈である。普通の教科書の中にも錫石、黃玉、石綠柱石、鋼玉石又は苗木石等の産地として出て居る三月三十日の朝福島を立て十一時頃に中津川驛に下車した。木曾には未だ春が來ず花らしいものもなかつたが。中津川町までくると急に明るさと暖かさとを感じた。梅香る妙見山公園を過ぎ木曾川を渡り川岸に沿うて行くと路傍にはスミレ、イヌノフグリ、コケリンダウタビラコの類が咲いて蝶や蜂が飛び交うて溝にはメダカが悠々と泳いで居て長閑なさながら春であつた苗木町までは一里弱、途中景色が頗るよい仰いで遙に惠那山を眺め伏して木曾川の絶壁をのぞむ大井町までの木曾川の景は天下の絶景さうな。此邊の岩石は主に花崗岩よりなり、風化浸蝕の有樣。崩解して土壤となる模樣がよくわかる。殊に川の中に水蝕による甕穴や壺穴が幾つもあるのが面白い途中にラヂーム鑛泉が二ヶ所あるが相當に浴客もあり効果もあるさうな

青山君に案内して貰ふ。勾配の低い連山が苗木町をとり卷いて山麓に白色の露出（俗名ハゲ）が所々に見えるこゝから種々の珍奇な鑛物が産出されるのだ。時間がなくて實地を調査する事が出來なかつたが崩壞した土砂の中からは根氣よく探すと鑛物が幾つか拾へる。然し結晶のよいものは岩石を堀割せねば得られぬといふ苗木小學校には此近所から採集された標本が多く陳列されてあるのだが休日で見る事が出來なくて遺憾であつた。長石、水晶を若干個貰ひ求めて歸へつた茲に青山君の盡力で小學校から苗木産鑛物の調査したものを一冊寄贈された事を感謝する

鑛産一般狀態に就て次の如く記してある

「當町附近に産する錫石並に之に伴ふ諸鑛物は本邦にて他の地に見ざる稀有の者多く世界鑛産史に一点紅を加ふるものなり其の産出は花岡岩及びペグマタイト並にこれ等母岩たる花岡岩の崩壞してなれる冲積鑛床中に産するものにして産地は各所に散在す最も有用なるものは錫石にして水晶黃玉ウヲルフラム鐵鑛フエルグソナイト苗木石綠柱石青玉雲母長石等は錫石に伴ひ出づ此中水晶は裝飾用としフルグソナイトは陶器の顏料として需用最も多く近時蛭川山にて採堀せるウヲルフラム鐵鑛は用途多望にして他は標本として賣れ行くものなり云々）

附記鑛物を賣つてる店は苗木小學校から數町はなれた所で水晶や長石の見事なものが十錢内外で買はれるし、鋼玉や雲母も價廉て得られる店には老人が水晶の細工をなして居るが詳細に說明してくれて尠なからず鑛物學上の參考にもなつた

福島から一日の快遊を試みんとする人々には猶手頃の土地である中津川町には製紙工場もある

地質斷片

塚越赳夫

山林學校附近の地質

杭の原一帶古生層にして主に粘板岩硫砂岩硅岩の累層をなす。黑川の右岸即ち本校演習林には硅岩の露出せる個所殊に無く粘板岩と硬砂岩が複雜なる累層をなせるを認む

事に依りて生ずるものなり、但し瀧の瀑下する瀧壺に生ずる歐穴も有れど河床に存する歐穴は流水の渦動に依るものなり

寢覺の歐穴は浸蝕の好例なりとして信濃教育會編輯の理科書にも其の寫眞を載せたり

駒ヶ嶽の生因

御嶽は古の大火山なれども駒ヶ嶽は勿論火山に非ざるなり、而して駒ヶ嶽は全山殆んど花崗岩よりなる、元より花崗岩は深造岩なるが故に最初より花崗岩が地表に噴出して今日の如き駒ヶ岳を形成せるものに非ず其の初めは古生層の粘板岩層が褶曲したるに際し其の鞍部の間隙に乘じて花崗岩が突入したものなり。而して其の後上部の粘板岩は鞍部の上端より風雨のために削磨せられて内部の山骨をなせる花崗岩が現今の如く山頂其の他に露出するに至りしなり、故に駒ヶ岳は其の後土地の隆起したる事なしとせば生成せられたる當時は現今の駒ヶ岳より一層高かりし理なり

駒ヶ岳の四合目の邊は今日尙粘板岩にて覆はれ居りて且つ之の粘板岩は花崗岩との接觸のために變質して粘板岩中に美しき空晶石紅柱石の結晶を含有せる事を認むるを得べし

軍需用材樹種及用途

陸軍用木材

現今兵器用材として陸軍の制式上採用せらる、樹種の内内地産木材中最も多く使用せらる、ものは檜、欅、白楊、厚朴、胡桃、山毛欅、鵝耳柏、樅、杉、松の十種にして其他、椙、楡、柊、桑、楢、元ご、うしころし、ひいらぎ、むく、蒲柳、黃楊、桂、紫檀、花櫚、槐、桐、櫻、あら、ぎ、栗椎黑柿花柏等をも用ゆ又近來各種の「ベニア」合板をも用ゆるに至れり

檜　各種車輪の輻轅桿輻重縱木各種柄類及大杭繫馬杭等に用ゐらる就中轅桿は良質の長材を要し心去四寸角長さ凡十二尺とす

欅　各種車輪の輞彈藥車類の背當板踏板底板及二十八珊榴彈砲の砲床並に抗力を有する箱類等に用ゐらる而して砲車の輞は凡四十角長五尺のもの輻重車の輞は凡三十角長四尺のもの自働車の輞は六七寸角長五六尺のものを要す

白楊　主として火藥箱小銃彈藥箱、榴霰彈箱に用ゐらる

厚朴　托架類及磨損を厭ふ物品を收容する箱類並に小金具を收容する箱測板鞘類に用ゐらる

胡桃　銃床、劍柄、飛行機推進機を主とし其他幅六寸（二挺取）又は長凡五尺厚三寸巾四寸（一挺取）に木取るものにして直徑一尺五寸以上の丸太材に就き其髓部四寸内外と邊材部二寸を除去し其殘部より木取す又飛行機推進機は長七尺乃至十尺厚一寸巾八寸の板を削りて七枚膠着したるものにして胡桃四枚扁柏三枚又は胡桃七枚を用ゆ

山毛欅　把柄類及鞍骨に用ゆ日露戰役の際は一時銃床材に代用せしことありしが實際使用の結果其甚だ不適當なることを發見したりといふ

槻　架橋用材として脚材、桁材、緣材に用ゐらる其橋桁は長凡十二尺の三寸角なり又飛行機胴体及翼に用ゐられ尙欅の代用として各種の用途あり

扁柏　箱托架、觀測梯用脚柱、起重機軌臺飛行機の胴体及翼把柄類に用ゐらる

樅　重輕砲彈丸、信管、藥莢用箱及其他の荷造材料等に用ゐらる

杉　火具類の箱架橋材料の踏板及板材等に用ゐらる

松　砲床板材導板等に用ゐらる

ベニア合板　飛行機胴体中の床板及羽目板用とし又翼に用ゐらる海軍飛行機にありては浮舟の外殼に用ゐらる

大体右の通りなるも兵器の種類によりては絕對的に一定の樹種を使用せざるべからず一例を擧ぐれば各種車輪の輞に欅同幅に欅輻重車の縱木に欅各種柄に欅野砲用袁桿に欅銃床に胡桃を專用するが如し（未完）

（山林彙報臨時增刊）

手紙の一節

〔一〇、二、二〕

樋田　良市

私は自己の貧弱に泣きます。何んで私には大愛が味はれないのであらう。噫まだ自己があるからだ。私といふものがあるから

だ幾度かく悔ひでも致し方がない。

先識に乏しい。又言ふ。何んたる私の貧弱さ。微々の事に遭遇して躊躇する。どこに男子の氣慨があるか。目醒めたる男性の閃きが何處にあるか？

ジットして見て居られない。何んで私は早く自已を悟り得なかつたのか、今それを歎く。こんな事のみ度々繰返すとき君の胸には滿足の喜びを與へない事と思ふ

其れは確かである。私の胸は穏かでない。

然し私には一つの幻影がある。やらう。

やれば屹度やれる。「血と涙の實現か、汗の實行か、愛の發揮か、これらが眞に男子たるの氣魄ではないだらうか。

而してこれらが善であり、正ではあるまいか。先づ自分の生涯を活し、他人に光明と希望とを與へ、進で學校を活かし、社會に少しなりとも貢献することが出來るなれば私等お互の幸福であらうと思ふ。我等お互はライン河の如き人生の流れに棹して、罪もなく下つて居る時、未だ見ぬ姿が現はれる、未だ聞かぬ聲を聞く。ローレライの歌は響いて來る。而して舵を忘れる時悉く其の激浪に呑まれて肉も靈も亡びて行く。オヽ君よ。人生の舵を忘れて居りはしない？

私は君の事思ふ度に戰慄する

舵を忽にするな。最後の勝利は今日の勝利にあり、今日の勝利は現瞬間の勝利にあるのだ。然らば勝利の生涯とは何んぞや

希望に輝き感謝歡喜に滿ちて自己を愛し學校を愛し一人でも多くの人を愛し得て社會の爲めに自分の命を捧げ得るこの生涯に入つた其の時を勝利の生涯であらうと思ふ。

私等お互は勝利の生涯に入るか否かの辻に彷徨して居るのだ

静かに考へてごらん。深い意味に於て私の胸を透して見て御覽ん。君にはよく解る筈だ。又君のハーとも私には詳らかである。

然れば私が弱者なんだ。突倒される。踏みつぶされる。空氣の滿たないゴム球だ。

どん〳〵飛び上りたい。けれど空氣がない

内容が貧弱だ

私は稍々變心狀態にある。あるは確かだ。氣狂ひだ。氣が狂ふ筈だ。光明が輝いて居る、早く其の彼岸に達せねばならぬ（この時氣が狂はんで居つてどうするか。然らざれば私は實に尊い人生を無意義な生活にて終るのだ。悲慘な者である。今年の學期試驗が危險だ。これは單に私一個人の事だから構はぬとしても私外の自分である

其れが亡ぶれば自分が亡ぶ。即ち君が亡ぶ

ればぼくが亡ぶ。再三繰返さなくとも明瞭だ

私等はかく信念をもつて本當に男性の硬所を突張らうではないか

不能とは愚人の辭書にあり。私はこれを信ずる、大和魂のある日本人、私等にはこれが咀嚼されぬ筈がない。やればやれる

これが不能に裏切る大和魂の發揮、汗と愛との實現であらう。ここに血があり涙あるのだ。正の前に立ちて奮闘する私の心身何等の疲勞も覺えない。私は君にか様な活動の巷を造つて貰つたのを感謝する。

この善の前に立ちて奮闘する。二人かの實現より七千万力の實現に及ぶ、これが所謂社會奉仕の第一歩かと考へられる

それには先づ自分を捨て様ではないか。

今まで私は自己を尊重し過ぎてつた。捨て様が足らなんだ。眞實に活きやうとするなれば先づ自己を捨てなければなるまいと思ふ。サテ君と二人捨石にならう。これが奉仕の生涯だ。而して歡喜の生涯が到來する。私等の肉体をして、精神をして、最少し何んとかしやうではないか。自己は自分の所有なんだ。朋友は自分の所有なんだ。而して宇宙森羅万象の一物だ。君と何んの爲めに結んだか。やらう。本眞劍に、命がけで火の出る様な奮闘を。

然らば熱し様、私等お互は根底のある感激發奮の原動力即ち熱量を增さねばならぬ。今の様な微温な事では何事も出來ない。五百度以上の熱を持たう。君と二人合すれば千度だ學校を熱化せしめるには充分だ。又他を熱し様と思ふなれば自已の熱量に相等の餘有がなくてはならぬ。先づ私等に一番近いものから温めてやらう。一人温めきればそこに千五百度の熱を生ずるではないか

而して全部熱し切るは物理學上當然の事であるか。全部に及ばなくとも或る一部分に於てこの熱を保ちたい

今私等お互は、其の融和したる高温度の實

（御注意）（活版所の誤植）此項は「地質斷片」の記事にして二頁より續き而して以下三頁に續く

黒川橋の右岸に露出せる岩石は卽ち其の粘板岩にして甚しき片狀組織をなせる者なり

黒川の左岸卽ち本坊附近には珪岩も諸所に露出せり。茲に注意すべきは木曾川の特性として其の左岸には臺地又は平地の廣く存在せるに反し右岸には平地も臺地も殆どなく木曾谷の北より南迄其の全谷を通じて右岸は絶壁をなせる山際を沿うて木曾川の流れつゝある事之なり

杭の原も亦其の左岸に生ぜる臺地併に平地にして其の臺地は比較的狹しと雖平地は河岸に近く分布して稍廣し、木曾谷を通じて之の平地は唯一の重要なる耕地にして多くは水田となれり

本校所在地も亦之の臺地の一部にして之れ等臺地は洪積層に屬す、木曾川の水面より之れ等臺地は三十尺乃至六十尺の高位に在り而して其の土中には河流のために稜角を失へる圓礫を有する事を認ひべし、

河岸に近く分布し且一層低き平地は勿論沖積層なり、本校蔬菜園（五號苗圃）は之に屬す

福島町附近の地質

福島町附近も亦一帶古生層にして主に粘板岩砂岩硬砂岩及び珪岩よりなる、而して西は川合峠に於いて又南は王瀧川の本流への合流点附近の神戸に於て各々花崗岩と接す

城山等を覆ふ火山灰輝石安山岩は古昔御嶽火山が其の活動を逞しうしたる名殘なり。

町街は山平丸山及び停車場附近の萬郡其の他中畑向城等の洪積層の部を除けば他は冲積層なり

清水町附近に露出せる粘板岩も亦前記黒川橋右岸のものと同様片狀組織の甚しきものなり

中畑より川合峠迄は砂岩硬砂岩粘板岩等の互層にて所々に甚しき褶曲をなせるを見る又御室附近の山腹の傾斜極めて急峻にして所により九十度に近きものあり、一体山の傾斜は吾人の普通登攀し得る極限は四十度位にて四十五度となれば極めて登攀に困難を感ずるものなり

尚御室に於いて木曾川河床内に一小圓丘あり、里人呼んで仁王孫の墓と云ふ、外周圍三百米あり、之は河床の變化のために生したる殘丘なり

木曾川の浸蝕

木曾川は木曾飛彈兩山脈の間に所謂木曾谷を形成す、即ち兩山脈に平行せる谷川なるを以て縱谷と云ふべし、されど支流には黒川の如く横谷をなせるものもあり

木曾川は斷層に依りて生ぜる河流にして斷層線を流るゝものなり、其の斷層は木曾川の左岸が陷落したるものなり、從つて前述の如く左岸には多くの臺地併に平地を形成せる理由も説明せらるゝ理なり

木曾川は其の落差の大なるがために其の浸蝕力は極めて强大なり、故に本流は豊富なる水量と勾配とに依りて深く河床を浸蝕し、つゝあるに反し、小なる支流は水重少きため其の浸蝕は本流の其れと相伴はず從つて其の合流点に於いて支流は絶壁を瀧となりて瀑下し本流に合するに至る、斯くの如き瀧を懸瀑と云ふ。小野瀧も亦其の一例なり

棧には花崗が波浪狀に河水のために蝕磨せられたるを見る、一体河床の岩石には波浪狀に蝕磨せられたるもの極めて多し、之れ水流が岩石と接する附近は水の運動に對する岩石の磨擦によりて波動的の運動を起し加之强き水勢の陰には眞空を生ずるを以て流水が逆行して茲に渦動を惹起して岩石の上面たると側面たるを問はず波動狀に彫刻するに至るなり

寢覺の床には花崗岩が直方体の節理をなせるもの、好適例にして從つて流水浸蝕は之の節理に沿うて行はれ殆ど兩岸は直立せる岸壁をなし而も巾狹くして深き事も亦其の節理に原因するものなり

尚寢覺の床には流水の浸蝕を語る上に大切なる歐穴が極めて著しく而も完全に發達せる事なり、之れ等歐穴の中其の右岸にあるもの、一つは完全に全形を具備し深さも二間直徑も二間あり、而して其の内部に大なる圓形の岩石あり、之の石が流水のために石臼の廻轉するが如き運動をなし從つて歐穴の生成を一層促進したるわけなり、歐穴内には斯くの如く内部に一個乃至二個の岩石を有するものもまゝ之れ有るものなり

之れ等歐穴も亦波浪狀の蝕磨と同様の理由に依りて流水が岩石に磨擦して渦動を起す

現に努力しつゝある。噫この事何んたる愉快ぞや。これが卽ち歡喜の生涯に入りたいものといはねばならぬ

だからジットして居られない。然しこれを三月までに實現しなくてはならぬと云ふ動機から起つた私の要求が實に冷めたく感じられる。私は尙以上に燃えて居る。何んで冷却せしめるものか。かく叫ぶ時に自らこれが幸福の生涯卽ち勝利の生涯であることが胸に畫れる。再び言ふ、本眞劍にやらうお互は丈夫である？神聖は男性を發揮し得る元氣がある？噫頼母しい、それで活き甲斐のある男だ。信頼する、血は愈々通ふ。

サア、立たう、大愛の下に沈默せよ。而して自分の存在を知れ。血と涙の標語は此處に存するのだ。私の言ふ事を忽にするも敢て拒まない。私の心情は神秘的作用により屹度君の神靈に感應する。

紙屑より

槇舍

敎壇に眞顏ながらに酒落りこね。
子等も笑へり我も笑へり
繪本くる子供の顏の輝よ睦月の炬燵
親しみ覺ゆ。
水やせて我家をかこむ木曾川の
河の岩床雪の積れる。
裏切りし友の悲しく苦しめし人の恐ろし
沒落に泣く。
嗚呼くもルビ！をこめし唇に頼み難きは
人の心と。

一しきり橋の袂により て見る川面を渡る風の寒けさ。

硝子ごし眺むる雪は人の知ひらひら舞ひて自づと積る。

春に入る賑はひ覺ゆ細き雨びたに降る日を硝子戸ごしに。

雪解して程なき今日の春雨に一花開くさくら草はも。

うちまるゝ覺えはなくものゝしられ心痛くも今日はひねもす。

おのがじゝ天を仰ぎて今日の幸祈りも終り雪の奥見る。

春たちて十一年勤續の服を付け子らにまじれり我も人の子。

笹の露子らにすゝめてうゝのかす人のありとか春はさびしや。

學校行事

二月十二日　當校創立二十週紀念の實行委員會を開會す

二月十九日　本月七日發令吉川眞夫敎諭心得任命本日より出校英語科を擔當せらる

本日職員生徒一同駒ヶ根村寢覺へ雪中行軍として出張午後四時無事歸校す

二月廿五日、大正十年度校友會役員選擧を行ふ、本日入學願書受付〆切志願者合計百二十一名

二月廿六日　校友會本年度最終の辯論會を開會す

三月　三日　皇太子殿下御渡歐に關する訓話あり

三月　八日　縣令第十六號を以て本校學則中授業料を一ヶ月金二圓と改正し大正十年四月より施行せらる

三月廿六日　本日午前十時本校第十八回卒業證書授與式を擧行す知事代理山崎縣視學齋藤福島林管局出張所長其他招待員父兄副保證人等參列

三月卅一日　本日付安藤敎諭舍監に兼任せらる

四月　一日　大正十年度始業式執行式後直ちに實習に着手す、此日大正十年度入學試驗を執行す本校に於ける受驗者三十八名

四月　三日　雨降る午後風を交へ夜に入りて大暴風雨となり屋根瓦を吹飛ばし飲用水路釣管墜落等被害少からさりき

四月　八日　入學試驗成績發表入學を許可せられたる者九十一名

四月十一日　荒木敎諭來任先生は北海道帝國大學農學部林學實科を本年度御卒業にして數學及林學の一部を御擔當殊に劍道二段の御資格を以て斯道御敎誨ある筈

本日聖德太子一千三百年御忌法會に付き訓話あり

學校記事

第十八回卒業證書授與式　本校第十八回卒業證書授與式は三月廿六日午前十時より講

堂に於て擧行せられた、本縣よりは知事代理山崎縣視學臨場、一同着席すると、校長代理西澤先生擧行の旨を告げられ次で勅語捧讀國歌合唱、中村先生の學事報告が終つて、西澤先生は卒業生證書を授與更に各學年優等生並に皆勤生に賞狀を與へられ卒業生に向つて懇篤な訓辭があり一同感奮胸底に徹した樣に見受けられた、次に山崎知事代理告辭を朗讀せられ郡長代理中澤郡書記祝辭を兼ねて希望演說あり次で齋藤福島出張所長の所見は力强く述べられ降壇、安井町會議員の祝吟に元氣を感じながら、茨木松本高等學校長及針塚上田蠶絲專門學校長七宮前本校長の祝辭代讀、蠶業取締所西筑摩支所主事補森田氏の卒業生父兄を代表して謝辭を述べ、在校生總代の送辭、卒業生總代の答辭にて正午式を終了した

卒業生の出身地及氏名左のやう

原籍	氏名
山梨縣	中島　省三
靜岡縣	村松　一郎
長野縣	藤田孝太郎
岐阜縣	井戸　利夫
山形縣	今野　啓藏
長野縣	西牧　巧
仝	藤井　卿
仝	伊藤　傳
仝	木下　旭
石川縣	宮城　吉雄
長野縣	中田　基一
仝	山下　尙
仝	小幡　弘
新潟縣	池主　鐵治
長野縣	千村　重豊
岐阜縣	高木　萬平
仝	上井乙之助
長野縣	片桐　英雄
仝	池上　卿三
仝	本南　克巳
仝	長谷川　都
仝	早川　秀雄
仝	柳澤　虎三
仝	山崎　高男
岐阜縣	高木　榮一
仝	荒木　要
仝	長谷川要治
仝	渡邊　時夫
愛知縣	藤田　喜一
仝	前田　早苗
兵庫縣	小林敏三郎
岐阜縣	熊崎　代治
長野縣	松原　松男
仝	澤頭　謹一
高知縣	大原　猛志
山梨縣	數野　二郎
長野縣	片原　祐一
岐阜縣	安江銳太郎
三重縣	筒井　正夫
新潟縣	小林　元

以上四〇名

賞狀受領者

優等生　中島省三　村松一郎　森田孝太郎　井戸利夫　今野啓藏　西牧巧（以上卒業生）
樋田良市　岡田廣平（以上三年生）
原金一　小松雄二　太田幸保　古畑豊　多田駒藏　田中文正（以上二年生）

在學中皆勤者　片桐祐一
同上精勤者　藤井卿
本學年中皆勤者　上井乙之助（以上卒業生）
小幡榮一　藤野干東　鈴木壽雄（以上三年生）北原辰雄　柳澤宗重　片桐宏　松島正彦　辻井誠道　上島菊造　細江金一　清水恒　田中文正　原金一　樋口國治　佐藤識二　小松雄二　金子平雄　川上榮司（以上二年生）

本學年中精勤者　片桐藤吉（以上三年生）石川熙今井龍雄　野本久吉　長谷川糾　田澤廣泓（以上二年生）

◆卒業生送別會　卒業式當日午後校友會にては卒業生の送別會を催して三年二年總代交々立つて惜別の情を述べ今後の奮鬪を慫慂し中村先生の訓戒に次て卒業生謝辭を述べ校歌を合唱萬歲三呼閉會

◆謝恩會　送別會后、卒業生は職員に對して謝恩の意を表はす茶話會を催し、卒業生總代の開會に次で小貫先生の挨拶に島內前

教諭の希望を述べられて後日ちに記念撮影をなして散解

◆式場朗讀せられた知事告辞及諸氏祝辞謝辞在校生送辭、卒業生答辭左のやう

告辭

本日本曾山林學校卒業式ヲ擧行スルニ當リ其ノ盛典ヲ祝スルト共ニ一言卒業生諸子ニ告グル所アラムトス

惟フニ產業ノ發達ニ因リ國富ノ增進ヲ圖リ自給自足ノ道ヲ講ジ立國ノ基礎ヲ强固ニスルハ我國方今ノ急務ニシテ國民ノ擧テ努力スベキ所ナリ就中林業ハ林地面積甚ダ廣ク木材ノ消費極メテ多量ナルヲ以テ他ニ其ノ比ヲ見ザル我國ニ在リテハ最モ重要ナル產業ノ一ニシテ輓近國民ノ自覺ニヨリ其發達ノ跡顯著ナルモノアリト雖モ之ヲ地勢ニ徵シ國狀ニ照スニ猶未タ遺憾トスベキモノ甚タ多ク植樹營林林產製造等ノ各方面ニ於テ將來其ノ振興ヲ策スベキモノ決シテ尠シトセス是レ斯界ガ誠實熱心研究工夫シテ已マザル新進氣鋭ノ人士ヲ求ムルニ急ナル所以ナリ

卒業生諸子

諸子ハ多年ノ努力ニ依リ今ヤ其ノ業ヲ卒リ將ニ出テ此ノ需メニ應セムトス諸子ノ前途ヤ頗ル多望其ノ責任ヤ誠ニ大ナリト云フベシ諸子宜シク學ベル所ヲ實際ニ施シ斯業ノ發達ヲ圖ルト共ニ斯界日進ノ知識ニ後レザラムコトヲ努メ大成ヲ將來ニ期セムカ冀クハ本校敎養ノ趣旨ニ副フニ庶幾ラン諸子夫レ旃ヲ努メヨ

大正十年三月二十六日　長野縣知事　赤星典太

祝辭

謹テ貴校卒業證書授與式ヲ祝シ併セテ貴校ノ御隆昌ヲ禱ル

大正十年三月二十六日　松本高等學校長茨木清次郎

祝辭

謹テ貴校第十八回卒業證書授與ノ盛典ヲ祝ス

大正十年三月二十六日　上田蠶絲專門學校長針塚長太郎

祝電

遙ニ卒業式ヲ祝ス　在長春　七宮　純雄

謝辭

峽谷ノ積雪何時シカ溶ケテ春風山野ヲ訪フノ時本曾山林學校第十八回卒業證書授與ノ盛典ヲ擧ケラレ不肖此座末ヲ汚スノ光榮ニ浴スルハ頗ル光榮トスル處ナリ顧ミレバ吾等父兄ガ諸子ヲ伴ヒテ入學式ニ列セシハ既ニ三星霜ノ昔チリキ然ルニ光陰矢ノ如ク過ギテ本日茲ニ卒業ノ榮ヲ擔フ事ヲ得タルハ全ク今昔ノ感ニ堪ヘサルモノアリ惟フニ諸子カ本日ノ榮ヲ得タルモノ是レ實ニ諸先生ノ慇懃ナル指導薰陶ノ賜ニシテ吾等父兄ノ深ク感謝スル處ナリ今茲ニ諸子ガ修了セシ學科ハ只僅カニ其ノ發端ニシテ入門ニ過ギス而シテ現今ニ於ケル林業界ハ頗ル多事多端ノ秋ニシテ前途亦遼遠ナリ而ノミナラス諸子ガ今後活社會ニ出テ、遭遇スル事件ハ實ニ複雜多端ヲ極メ殆ンド應接ニ遑アラス茲ニ於テカ卒業後ノ修養ノ益々緊要ナルヲ見ル宜シク忍耐持久以テ事功ヲ永遠ニ需メサル可カラザルト共ニ今後卒業後ト雖モ諸先生ノ御援助ヲ仰ギ度特ニ我等父兄ノ切望スル處ナリ茲ニ卒業生父兄一同ヲ代表シ聊カ蕪辭ヲ述ベテ謝辭トス

大正十年三月二十六日　卒業生父兄總代　森田長次郎

送辭

餘寒未タ去ラス玉屑時ニ散ルアリト雖モ万木草將ニ萌サントスル所蝶舞セ雲雀立タントシテ自然ノ春ヤ酣ナラントス此ノ時ニ當リ茲ニ本校第十八回卒業證書授與ノ盛典ヲ擧行セラレ兄等卒業ヘ月桂冠ヲ戴カル本日ノ光榮何者カ之ニ加ヘン生等此ノ盛典ニ際シ万感胸ニ滿チテ言フ所ヲ知ラザルナリ　夫生等ノ本校ニ入學スルヤ常ニヨク慈愛ト情誼トヲ以テ指導誘掖シ給ヒシ兄等ニ未タコノ恩誼ヲ報ユルノ遑ナク爰ニ本日ヲ以テ袂ヲ別ツ生等何ソ袂別ノ悲嘆ニ堪ヘンヤ然レドモ生等ハ一片ノ愛着ノ情ヲ以テ兄等ノ光榮アル前途ヲ祝ス者ナリ兄等ハ螢雪ノ功空シカラス今ヤ本校ノ課程ヲ卒ヘ潑溂タル元氣ト洋々タル希望トヲ抱キテ光彩アル新生涯ヲ迎ヘントスル豈慶賀ノ至リト言フベシ

見ル春風駘蕩友旗ヲ渡ルハ兄等ノ平和ナル前途ヲ示スモノニ非ヤ諸鳥ノ宛轉タル朗聲ヲ校庭ニ聞クハ兄等ノ幸アル前途ヲ祝福ス飜テ我ガ林業界ヲ見ルニ近年頗ル長足ノ進歩發達ヲ遂ケタルモ前途猶遼遠ニシテ兄等今後ノ活動ニ須ツコト切ナリ兄等ノ前途何ソ夫責任ノ重且大ナルヤヲ自覺シ幸ニ自重自愛以テ斯業ノ向上發展ニ貢献セラレンコトヲ切望ス爰ニ至リ惜別ノ情堪ヘ難シト雖モ生等益々發奮努力シテ兄等ノ志ヲ繼ギ愈々校風ノ發揚ニ勉メ敢テ諸兄ノ後進タルニ愧スサランコトヲ期ス乞フ諸兄ヨ行ケ行キテ校風ノ美ヲ社會ニ示シ尙生等後進ノタメ指導ト鞭鞭トヲ賜ハランコトヲ聊カ蕪辭ヲ述ベテ送辭トス

大正十年三月二十六日　長野縣木曾山林學校生徒總代　第二學年　樋田良市

答辭

三冬既ニ去リ今ヤ陽春ノ佳季ヲ迎ヘントスルニ際シ茲ニ本日ヲトシテ生等四十名ノ爲ニ卒業證書授與ノ盛典ヲ擧行セラレ知事閣下ヲ始メ來賓諸賢ノ臨場ヲ仰ギ剩ヘ知事閣下ノ告辭並ニ校長先生來賓各位ノ訓辭及ヒ在校生諸君ノ送辭ヲ辱フス生等ノ光榮何ソ言フニ堪ヘン

顧レバ生等志ヲ立テ、本校ニ入學以來諸先生ノ懇篤ナル敎訓ト懃慇ナル薰陶トニ依リ日ニ月ニ事理ヲ辨ヘ德ヲ研クヲ得今ヤ三歲ノ課程ヲ終了シ羽翼既カ成リテ多端ナル社會ニ飛翔ヲ試ムルヲ得ルニ至レリ生等ヲシテ今日アラシメタ當局及ヒ師恩ノ高且ツ深ナル山海モ啻ナラザルナリ加之今又校長先生ヨリ生等ノ將來ニ對シ優渥ナル規箴ヲ賜ハル生等感佩スル處アラントス生等淺識陋才ナリト雖モ至誠一貫黽生事ニ當リ克ク本校敎養ノ主旨ヲ全フシ今日ノ榮譽ヲシテ益々光輝アラシメ以テ多年鴻恩ノ萬一ニ報ユル處アランコトヲ期ス　聊カ蕪辭ヲ述ベテ答辭トス

大正十年三月二十六日　長野縣木曾山林學校　第十九回卒業生總代　中島　省三

◆校友會役員任命　本年度役員は詮衡中でありましたが四月七日左の通り任命せられた

庶務部　副部長　小松　順市
辯論部　副部長　伊藤　良雄
撃劍部　副部長　山田　憲夫
庭球部　副部長　片田　敏郎
弓術部　副部長　安江　明耕
遠足部　副部長　小縣　正幸
柔道部　副部長　宅見　剛二
　　原　主水
　　樋田　良市
　　山岸　七之丞
　　有井　泰二郎
　　岩賀　三男
　　稲垣　樹
　　堀阪　英一
　　内

雜誌部　部長　門田　驚
　　副　今井　與一郎

◆入學試驗　本年度入學は四月一日午前九時より開始し午后二時半終了せり八日成績發表其結果入學を許可されし者次のやう

入學生氏名及原籍（成績順）

長野縣南佐久郡　井出　進
　　西筑摩郡　櫻井　清
　　南安曇郡　二木　清澄
　　西筑摩郡　吉田　邦雄
　　〃　郡　平田　兵平
　　下伊那郡　山口　岳
　　西筑摩郡　岩城　勳
　　東筑摩郡　中村　幸
岐阜縣惠那郡　近藤　鋌五
　　加茂村　安江　道雄
長野縣下高井郡　湯本　彌六
岐阜大垣市　伊藤　一美
長野縣西筑摩郡　手塚　節次
　　東筑摩郡　濱口　敬男
岐阜縣益田郡　田口　學
長野縣西筑摩郡　今井　一
　　〃　郡　征矢　辰三
　　上伊那郡　小椋　一美
　　諏訪郡　篠原　七木
山形縣最上郡　小野　久孝
長野縣西筑摩郡　唐澤　敏吉
　　〃　郡　小松　文明
　　〃　郡　水野　作

長野縣東筑摩郡　大槻　榮壽
仝　松本市　新美　成記
愛知縣北設樂郡　原田　稔
三重縣度會郡　米倉　寛
岐阜縣益田郡　熊崎　末吉
長野縣西筑摩郡　小幡　正義
岐阜縣加茂郡　井戸　勝
長野縣西筑摩郡　青木　友廣
仝　古畑　重吉
岐阜縣益田郡　井上　平六
長野縣西筑摩郡　若井嘉久太
山梨縣北巨摩郡　加藤　積
長野縣西筑摩郡　新田　榮
仝　上田　進
岐阜縣惠那郡　水野　太郎
長野縣西筑摩郡　早川　盛三
山梨縣北巨摩郡　細田　芳三
長野縣西筑摩郡　龜子　辰雄
岐阜縣惠那郡　遠山　重明
長野縣西筑摩郡　村上　頼
北海道空知郡　小玉不二雄
高知縣長岡郡　伊藤　福治
長野縣西筑摩郡　市川　清澄
岐阜縣武儀郡　福井　義一
長野縣西筑摩郡　森田　寛雄
岐阜縣惠那郡　成木　正夫
仝　井戸　市郎
仝　加茂郡　平川　榮一
仝　益田郡　西村　勝二
長野縣西筑摩郡　武居　勝
仝

岐阜縣惠那郡　原　朋夫
仝　益田郡　細江　鉦三
長野縣西筑摩郡　土村　正治
仝　吉野　俊策
仝　北佐久郡　西澤　元
岐阜縣武儀郡　日下部鉦一
仝　惠那郡　森　軍次
長野縣東筑摩郡　久保田正治
仝　西筑摩郡　小野安兵衛
仝　東筑摩郡　市川巳年男
仝　東筑摩郡　岡西　英二
富山縣下新川郡　道用久米吉
仝　下伊那郡　細江　憲三
岐阜縣益田郡　星　多喜夫
長野縣東筑摩郡　濱　尚吉
仝　西筑摩郡　古畑由太郎
仝　東筑摩郡　肥田　織三
仝　西筑摩郡　原崎　武雄
靜岡縣志太郡　有賀　瑞穗
岐阜縣土岐郡　岩尾　慶一
仝　郡上郡　長瀨　稻作
仝　吉城郡　小林　眞三
長野縣小縣郡　芦澤　齊
仝　西筑摩郡　梅村　磯一
愛知縣西加茂郡　內山　東
長野縣北安曇郡　代田多見雄
仝　西筑摩郡　曾我繁太郎
仝　諏訪郡　小林喜清雄
仝　上伊那郡　新村　洋
西筑摩郡　蜂谷　晃

北海道常呂郡　小山內春吉
山梨縣北巨摩郡　小泉　博
靜岡縣加茂郡　稻葉　二郎
長野縣東筑摩郡　村上　幹夫
仝　下伊那郡　熊谷　章
仝　小縣郡　一之瀨甲子一
仝　東筑摩郡　小松　利三

因に志願者總數百二十一名にして內採用者九十一名なり

入學志願者縣別左之通り

長野縣六十五名　岐阜縣三十二名　愛知縣六名　靜岡縣五名　山形縣二名　山梨縣三名　北海道二名　岩手高知三重富山新潟福島の各縣は一名宛內受驗者は百五名

編輯室より

田中

陽光を浴みて希望に燃ゆる日頃熱誠なる諸君活動の天地に目も醒むる御發展さぞかし御元氣の事と察して居ります

扨此頃諸方面より玉章に接し林友關係者一同有難い事と感謝致して居ります、卒業生諸君には最初御赴任當時、二三回は殊の外御綿密なる御報恵送、自然御就任或は御轉任の處、御執務の工合など明細となりますから、會員動靜欄に掲載濟します、が四五年も經過せらるゝと何れへ御轉任やら、一向雲を摑む樣な次第で、林友を發送致しましても、戻りもせず、戻りますれば西澤先生初め諸先生などに御尋ねして近在の卒業

生諸君に量る都合もあり、これで毎々注意を受くる樣な次第でありますが、返送なきもの多く、當室にては先方到達のものと安心致して居りますと、時折もはや林友が一ケ年も來ないが如何したのだ、甚だ不都合でないか、なぜ御咎めに與る、何程御咎めに與つても致方がない、怠慢の樣にも取れますが、これは不可能の怠慢とでも申しましやうか、で其邊の所をよく御諒察を願ひたいものです、各地方に蘇門會がある樣ですから其中で通信係の方をお拵へになつてお轉任の方などを御報告を願へれば至極仕合せします、これも一策かと存じます

◎次で林友代の事ですが先二月號を以て申上げました通り、第十二回以前の方は殆んど代價が不足になつて居ります、で悉皆では金五百圓餘の不足で困り切つて居ります此向で參りますと林友は自然の勢、破產の止むなきに至ると考へます、此れまで續いた林友を廢し度くはないのですが、破產となると仕方のない事になればすまいかと存じます、尤も先二月號御覽の上御送附になつた方も多々あります、諸君に御一考を願ひます

◎又一部代金五錢と致し紙質を改めると共に其中に時折圖解樣のものも入れたい考へですが如何なものでしやうか

◎本年度卒業生諸君は林友代を毎年の例として御納置せらるゝが慣習でしたのに御納置ない方が多い樣ですが此際御送金を願ひたいものです、向ふ六ヶ年分金二圓ですから

◎それに林友に對して御注文などありましたなら御遠慮なく御申出に與りたいものです

◎島內先生謝恩金報告は次回にす

長野縣木曾山林學校創立記念會記念事業醵金申込報告書

（第三回報告申込順）

金拾圓　中島源一郎殿
金拾圓　平田　稻男殿
金五圓　鵜殿　正雄殿
金拾圓　肥田幸一郎殿
金五圓　大森　悅殿
金拾圓　下平　三雄殿
金五圓　富士川金二殿
金五圓　篠原　忠治殿
金拾圓　林　省三殿
金五圓　宮澤　末雄殿
金五圓　宮田　實殿
金五圓　米久保春雄殿
金拾圓　福川　正三殿
金拾貳圓　岡西　猛殿
金拾圓　皆川　秀雄殿
金五圓　松島　周一殿
金拾圓　新田　穫殿
金五圓　野村　光智殿
金拾圓　野本　興一殿
金拾圓　松尾　廣二殿
金拾圓　篠原　爲一殿
金五圓　吉澤　豐一殿
金貳圓　小藤作四郎殿
金拾圓　志津　篤助殿
金拾圓　園原　咲也殿
金五圓　原　四郎殿
金五圓　藤澤甲子十殿
金五圓　柳澤止之進殿
金拾五圓　星加　晴雄殿
金拾圓　宇佐美周紫殿
金拾圓　南勝右衛門殿
金貳拾圓　中田　辰雄殿
金參圓　兒野　榮殿
金七圓　瀧澤銀次郎殿
金七圓　大島　晃治殿
金十五圓　市川　豐二殿
金五圓　原　正次殿
金五圓　大洞　盛一殿
金拾五圓　羽田　龍尾殿
金五圓　前田　正義殿
金五圓　狩戸　深一殿
金拾圓　黑岩　正平殿
金拾五圓　柳澤　邦信殿
金拾圓　大脇　又術殿
金拾圓　甲田　林殿
金拾五圓　杉本　貢殿
金拾圓　橫山　治人殿
金拾圓　原　雛助殿
金拾圓　伊藤　善三殿

金五圓　家高　碩二殿
金四圓　小桂　二郎殿
金拾圓　松川　久吉殿
金五圓　小林　盛大殿
金五圓　樋口　勵殿
金五圓　阿部　益實殿
金六圓　佐藤　垣殿
金五圓　吉澤　英雄殿
金拾圓　樋口　勇殿
金七圓　細窪友一郎殿
金五圓　星加　正雄殿
金五圓　北川　春殿
金五圓　松島　長二殿
金貳圓　長坂　清人殿
金拾圓　横井　正守殿
金拾圓　塩川　金二殿
金五圓　西尾　彰殿
金拾圓　柘植　五郎殿
金拾圓　千村　善三殿
金四圓（追加金）　岡西　謙三殿
金拾圓　加藤　正次殿
金五圓　大木多喜雄殿
金拾五圓　勅使河原角藏殿

小計金五百九拾圓也

累計金壹千八百四拾壹圓五拾錢也

但シ四月十日迄申込ノ分

◎醵金申込期限四月三十日限

朔風漸く過ぎ去りて春風徐に渡り南枝先づ綻びて春先豊に春草の萠ねんとする所百鳥歌はんとし時將に陽春の候我が敬寵する林友會員諸兄には益々御昌榮之段奉賀候

扨世界の大勢を顧みるに滔々たる世界思潮は遠く東洋に波及し幾多の思想は我が民心に浸潤し朝不謀夕の秋に當り何等標揭すべき主義方針も無き無似なる生等圖らずも先輩諸兄の後を受けこの編纂の大任を讓らるゝに當り忸怩たるの感に不堪候

然りと雖も生等諸兄の御指導洪惠を仰ぎ加ふるに黽勉怠らず努め精輝ある我が雜誌部の名を貶さゞらむを期す願くば先輩諸兄愚鈍蒙昧にして無爲なる身の憫然たるを酌まれ本誌に對し倍舊の御補導援助を垂れ併せて金章玉句を雨下せられん事伏して願上げ候

副部長　今井與一郎
部長　門田　驚

會員動靜

○新田　穆君　朝鮮江原道鐵泉郡廳に轉任
○小原靜雄君　栃木縣上都賀郡今市小林區署に轉任
○平田美則君　栃木縣上都賀郡今市川小林區署に轉任
○大脇又衛君　朝鮮平安北道高山鎭へ轉住
○長田克己君　甲府四九聯隊第二大隊第八中隊へ編成變へありと
○原　榮太君　新開村字熊澤に轉居新井と改姓の由
○井上寛一君　群馬縣利根郡東村字平川に轉任
○廣瀨運平君　西筑摩郡讀書村に住居
○安藤　晃君　朝鮮京城本町二ノ四五ひさしやに住居總督府山林課に勤務
○柳澤邦信君　朝鮮咸鏡南道甲山郡普惠面普天堡營林廠派出所に勤務此頃來校せられたり
○種倉隨藏君　下伊那郡役所に轉任
○古畑要治君　農科大學實科入學東京市外下目黑五五七山崎方に住居
○西牧　巧君　盛岡高等農林學校林學科入學寄宿舍ノ二八居住
○立道乙松君　今度餘隊靜岡縣廳勤務

林友代領收報告

金貳圓　井戸利夫君
仝　池上鐵治君
仝　今野啓藏君
仝　早川秀雄君
金壹圓五拾錢　前田早苗君
仝　長谷川都君
仝　塩川金次君

大正十年四月廿三日印刷
大正十年四月廿五日發行
長野縣西筑摩郡福島町四〇四番地
發行人　安井正夫
長野縣西筑摩郡福嶋町三八九番地
所　蘆澤書店
長野縣松本市小柳町八十五番地
印刷人　淺川吉藏
長野縣松本市小柳町八十五番地
印刷所　淺川版活所
【定價金參錢】